



No.21 学校図書館 司書だより 2015年3月



わたしと読書

絵本の楽しみ、絵本の力

矢島 周平

子育て真っ最中のため、最近の私の読書といえどもつばら絵本だ。

平日は仕事でなかなか子どもが起きている時間には帰れないが、週末の寝る前にはなるべく子どもたちに絵本を読んでもらうと心がけている。

三人の娘たちは皆絵本が大好きで、夜寝る前には必ず絵本を読んでとせがむ。好きな本を選んで「い」と言うと、五冊六冊と選んでくる。川の字に寝転んで絵本を読むが、三冊を超えたあたりから私のまぶたは重くなり始め、横から突つかれながらやっとなこと五冊ほど読んだころには、ほぼ意識がなくなっている。寝室には開かれることになかった絵本が積み上がっている状態だが、たくさん読んで欲しいという娘たちの思いがうれしくもある。

思い返すと私や私の姉達も母親に毎日絵本を読んでもらっていた。私は二歳の頃、一つの本が気に入ると飽きるまで毎日同じ本を読んでとねたり、特に「とちちゃんはどこは二か月連続で持ってきたそうさ。読み聞かせる立場になって感じたことだが、毎日同じ本を読むのは意外に大変だ。当時、子どもの興味を尊重してくれたことがありがたく思う。



私は幼い頃から中耳炎を患い、週に一度学校を早退して通院しなければならなかった。しかし、長い待合の時間にバッグいっぱい絵本を読んでもらったことは、とても楽しい思い出であり、のちに私が読書に興味をもつ大切なきっかけになったと思う。

二、三年生になると、この待合室の時間は「山んばと空とぶ白い馬」や「ガンバとカワウソの冒険」など絵のない本に移行していった。当時の私は本の中の世界に入り込み、登場人物と一緒に冒険しているかのように感じた。文と限られた絵しかないことが、逆に想像力をかきたてる。自分の空想力で異世界にどっぷり浸かるという経験は、子どもの感受性が育つための重要なステップだと思ふ。



上の娘たちも最近では文字の多い絵本に興味を示すようになり、昔話を自分から持ってくる。昔話は言葉遣いが古かったり、方言が多かったりと、聞き手は分かりにくいと思われるが、一生懸命自分の想像力で補って理解しようとしている。

いったん興味を持つと子どもたちはほとんどそれを深めていける。親ができることはそのきっかけを作ることだろう。これからも自分が楽しみながら、子どもたちの本への出会いをサポートできたらいいと思う。

図書館クイズ

今年度、美濃加茂市立図書館でもっともたくさん貸出のあった子どもの本のランキングです。2位、3位のシリーズ絵本の「〇〇、△△」は何でしょう。

- 1位 「はらぺこあおむし」
- 2位 「〇〇と△△のちようび」
- 3位 「〇〇と△△のおかいもの」「〇〇と△△のそらのたび」
- 4位 「かいけつゾロリのきょうふのカーレース」
- 5位 「ぐりとぐら」

(2014/04～2015/01 のデータ)

矢島さんは、一月に文化の森で行った「子育て学習会」のビブリオバトル(おすすめの本を紹介しあう合戦)で『いちばん読みたくなった本』に選ばれました。紹介された本は『じごくのそうべえ』でした。

五歳の双子と二歳の、三人の女の子のお父さんです。お休みの日には、『ぎふ森のようちえん』でスタッフとして、美濃加茂では森の中の親子会を開いたりして、たくさん子ども達と遊びを通して関わっておられるそうです。

※ビブリオバトルでは、他にも「ねないこだれだ」「ぐりとぐら」「はじめてのおつかい」「こいぬとこねこは愉快な仲間」「ぼちぼちいこか」が紹介されました。

どれも楽しいお話でした。

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました

蜂屋小学校では、「本で心をつなぐ図書館教育」地域とつながり、発信する図書館をめざして、をテーマに、図書館教育を推進しています。



作りの、蜂屋から飯館村への六つの交通機関（バスや電車）に貼られ、掲示されました。優秀作品は、飯館村へと届けられました。

児童会本部委員会では、年間通して行っているアルミ缶回収の収益金で本をプレゼントしました。各学年で選んだ「いのちの一冊（命の重みを感じ、心を温かくする本）」に手作りの帯をつけて贈りました。

蜂屋小学校

飯館村からは、「本のおたより」が届きました。紹介された本は、本校図書館でも購入し、遠く離れた仲間と一冊の本を共有するという楽しみを生み出しました。

それは、福島県飯館村の飯樋・草野・臼石小学校とのつながりです。三つの小学校は、東日本大震災における福島第一原子力発電所の事故にともない、今なお、仮設校舎での学校生活之余儀なくされています。そんな仲間、ひとときの安らぎや応援の気持ちを届けようと始まった「本を通しての交流」です。

図書委員会主催の図書館祭りでは、「飯館村へ届け！ぼくたちのお気に入りの一冊」をスローガンに掲げ、読書郵便コンクールを行いました。全校児童が、一押しの一冊を絵や文で葉書にしたためました。葉書は、図書委員手

「本が大好き。」という思いは一緒です。これからも両校の本を通しての交流が続いていくことを、飯館の子どもたちの笑顔あふれる生活を心から願っています。



えほん

「スザンナのお人形」
マジエリー・ビアンコ作
岩波書店 950円



スザンナは、大切な花びんを割ってしまったのに、強情であやまることができませぬ。とうとうおもちゃを全部競売にかけて弁償することになってしまいます。最後に残った目も鼻もない古ぼけたお人形が出されたとき、やっとスザンナは謝ることができました。心をこめて大切にしてください。お人形は本物だったので。外国の子どもの暮らしも垣間見ることが出来ます。

物語

「すみれちゃんは一年生」
石井 睦美作
偕成社 1080円



おじいちゃんに買ってもらったすみれ色のランドセルを背負い、すみれちゃんはワクワクドキドキ新一年生です。妹のかりんちゃんに悪戦苦闘しながらも、やさしいおねえちゃんになっていく等身大のすみれちゃんがつとてほほえましく感じます。春に読むおはなしにピッタリ！

この本読んでみて！

小説

「満願」
米澤 穂信 作
新潮社 1728円



2014年ミステリ読みのプロが選んだベスト1。岐阜県出身の米澤穂信さんの「満願」は、警察官や商社マン、中学生姉妹、フリーライターなどが、遭遇する6つの奇妙な事件が描かれています。驚愕の結末で唸らせるミステリ短篇集。山本周五郎賞受賞作。

大人向け

「ミュージアム・レストラン」
ガイド2007年
朝日新聞社 1728円

家族旅行に博物館、美術館はいかがでしょうか。この本の特徴はタイトル通り、舌も楽しめる情報が加わっていること。出版年が古いので、確認が必要ですが、第一段階の計画には使えそうです。早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、明治大学博物館、東京大学総合研究博物館などいかがですか。入館無料です（内容を確かめてから入場した方が良くもありませんが）。この本には紹介されませんが、みのかも文化の森も、pageと連携企画をよく行っています。先ずは地元から。

図書館クイズの答え：
大人気「バムとケロ」シリーズです。

